



濱 貴子（社会学）

県大での日々：2014～2024年

2014年春に県大に赴任して11年目の春を迎えようとしています。赴任当時は30歳でした。娘は3歳で、赴任した4月に娘も保育園に入園しました。3月末に公舎に引っ越してきた際に、引っ越しラッシュのため荷物が予定通りに届かず、暖も取れず2人で部屋で震えているのをH先生が見つけてくださり、布団やヒーターを貸してくださり、ご飯もごちそうになり、とてもありがたかったことが思い出されます。1・2・3年目は授業準備で日々自転車操業でした。授業でうまく説明できないことも多く、周りの先生方に相談して反省し、もう一度試してみる、の繰り返しでした。一方で、研究については、じっくり腰を据えて取り組むことができるようになり、地道にデータを作り、分析の試行錯誤を重ね、研究費も獲得できるようになりました。

4・5・6年目は娘も小学校に入学し、だんだんと生活と研究・教育のバランスもとれるようになっていきました。休日にファミリーパークや雨晴海岸、黒部峡谷、高岡古城公園など富山のお出かけスポットに出かけました。研究については、だんだんと個々の研究の関係性がはっきりしてきて、論文でも書き分けられるようになり、成果をあげることができるようになりました。教育では、説明することにも少しずつ慣れてきて、学生さんの反応をみて、内容を調整したり補足したりすることができるようになっていきました。

7・8・9年目は、娘は小学校高学年になり、意思表示をはっきりするようになって、けんかや仲直りを繰り返しながら日々暮らすようになりました。娘の習い事や塾通いに付き添い、その空き時間に喫茶店やカラオケ店で研究や論文執筆を進めるという日々でした。博士論文や博論をもとにした単著もそのような日々のなかで書いていきました。教育では、授業での学生さんからの感想から時事的な補足にも挑戦するようになり、また非常勤で専門的教育社会学の授業を担当させてもらい、充実した授業をおこなうことができるようになっていきました。

10年目の今年度は、娘が中学生のスタートとともに4月から大阪で暮らし始め、私はひとり暮らしになりました。寂しかったです。生まれて初めて不眠になりました。ただ、時間ができたこともあり、新しい研究に着手し、研究ネットワークも広がりました。また、夏から秋にかけてはこれまでの研究成果に対して学会等でご評価いただき、とても嬉しかったです。教育では、授業中にNHK富山放送局様とコラボ授業をしたり、ゼミの運営方法が定着し活発に展開できたりと、こういうふうにしたらより面白く充実したものになるかもしれないという企画や工夫が実を結ぶようになってきました。

赴任した10年前には、現在のようなスキルが身につくとは思いませんでした。たくさんの方々に助けていただいていることに感謝し、日々目の前の課題について向き合い続けながら少しずつ工夫していくなかで、自分を育てていくことができるということを学びました。

日々のご褒美は、自転車で太閤の湯に行き、ゆっくりとお湯につかって、お風呂上りにグリーンダカラを一気飲みして帰って寝ることです。太閤の湯にはずっとお世話になっており、娘とおしゃべりしてリフレッシュするという楽しい思い出もたくさんあります。これからもこの10年で培ったスキルやリフレッシュ方法を実践・改善し、一層研究・教育に精進していきたいです。